

〈中学社会〉

思考力・判断力・表現力を育む公民学習指導の工夫

～資料を活用した言語活動の充実を通して～

沖縄市立コザ中学校 教諭 大 湾 明 子

I テーマ設定の理由

21 世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として極めて重要な「知識基盤社会」の時代である。こうした社会を主体的に生きるためには、「知・徳・体」の調和的、一体的な「生きる力」を育むことが必要とされている。2009 年と 2012 年に行われた P I S A（O E C D 生徒の学習到達調査）の分析で「思考力・判断力・表現力等の読解力や記述式問題，知識，技能を活用する問題に課題があること」，「読解力で成績分布が拡大し，その背景には家庭での学習時間などの学習意欲，学習習慣，生活習慣に課題があること」，「自分への自信の欠如や自らの将来への不安，体力の低下といった課題があること」が挙げられた。

平成 20 年度に改訂された学習指導要領改訂の基本的な考えの中で、思考力・判断力・表現力等の育成が示され、そのために観察・実験やレポートの作成、論述といった学習活動を充実させること、そして、そのような学習活動の基盤として言語に関する能力の育成に取り組むことの重要性が示された。「思考力・判断力・表現力を育む公民学習の指導の工夫」の実現を図ることは、そうした今回の学習指導要領改訂の基本的な考え方と軸をひとつにしている。また、中学校社会科の改訂において「基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得」「言語活動の充実」「社会参画，伝統や文化，宗教に関する学習の充実」が示された。公民的分野においても、社会的事象について解釈すること，事象の特色や事象間の関連を説明すること，論述することなど言語活動にかかわる学習をより充実させることなどが盛り込まれた。

本校の生徒の実態に目を向けると、全国学力学習状況調査の結果から読解力や記述式の問題で課題がみられた。それは定期テストにおいても同様である。公民学習においても社会的事象を読み取り，解釈することや習得した知識と関連付けて説明したり，自分の考えを根拠をふまえて論述したりすることを苦手とする生徒が多いのが現状である。

これまでの学習指導を振り返ってみると、用語の説明や制度のしくみなどを理解させることに時間をかけて、読み取った事実を解釈する，説明する活動が不十分であった。また，個人で意見を出し，グループ交流をさせる場においても，その意図が不明確で深まりのない話し合いになり，考えや意見を根拠をふまえて述べる事や，習得した知識・技能を活用するねらいが十分に達成できていなかった。さらに，学習課題の設定や活用を図るための意図した言語活動の設定が曖昧で不十分であった。

そこで，本研究では，公民的分野の学習において，単元を貫く課題解決的な学習と資料を活用した言語活動について研究し，実践することで，思考力・判断力・表現力が育成できると考え本テーマを設定した。

II 目指す生徒像

社会的事象について追求し，思考・判断・表現できる生徒

III 研究目標

公民的分野の学習において，資料を活用した言語活動の工夫を図ることで，思考力・判断力・表現力が育つことを実践を通して明らかにする。

Ⅳ 研究仮説

1 基本仮説

公民的分野の学習において、資料を活用した言語活動の工夫を図ることで、思考力・判断力・表現力が育成されるであろう。

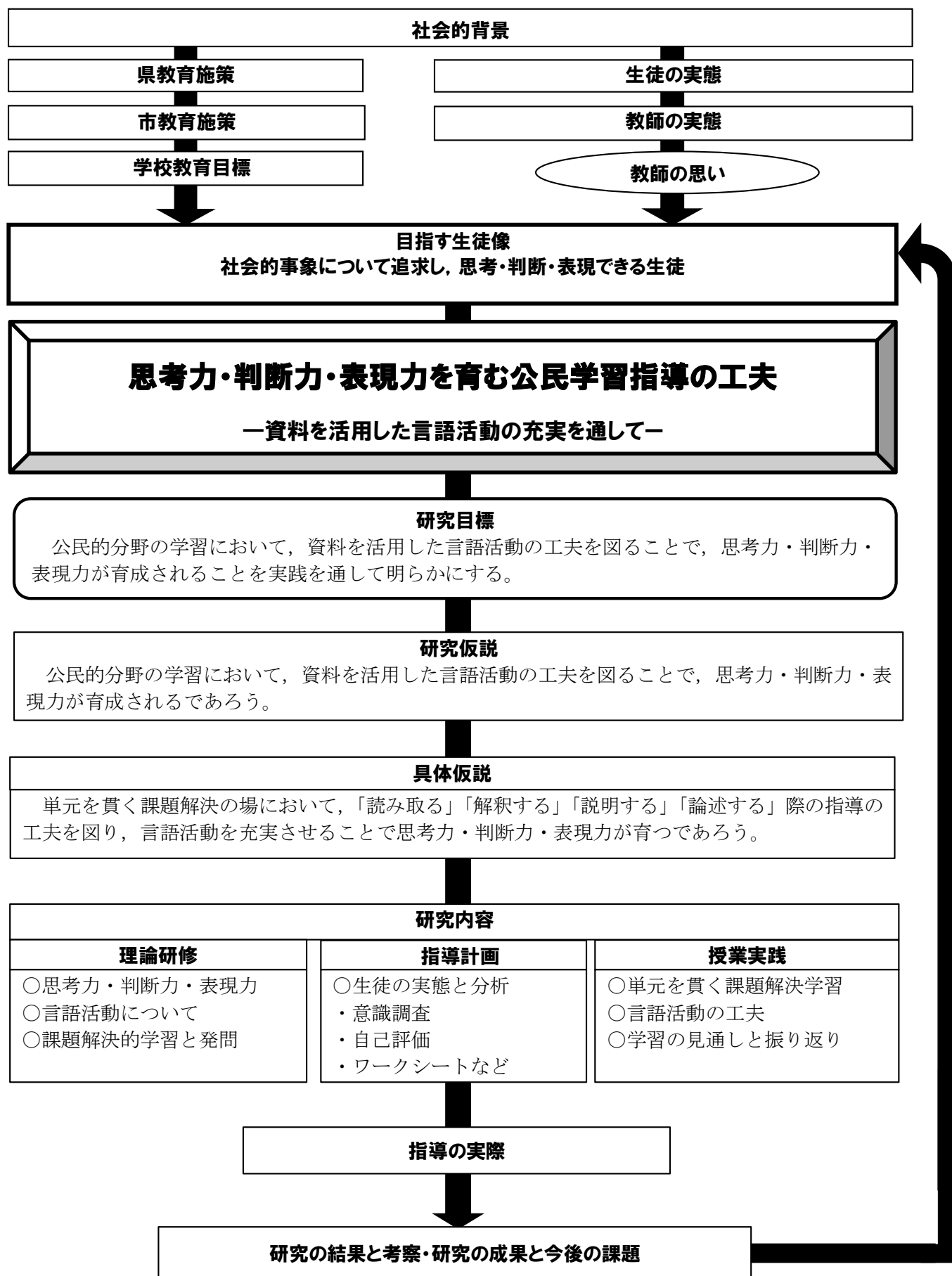
2 具体仮説

単元を貫く課題解決の場において、「読み取る」「解釈する」「説明する」「論述する」際の指導の工夫を図り、言語活動を充実させることで思考力・判断力・表現力が育つであろう。

3 検証計画

- (1) 事前・事後の実態調査（学習状況に関する意識調査）
- (2) 理論及び指導方法の研究
- (3) 検証授業の実施と生徒の変容についての研究仮説の検証

V 研究構想図



VI 研究内容

1 理論研究

(1) 社会科における思考力・判断力・表現力について

中央教育審議会答申は、学習指導要領改訂の基本的な考え方として「思考力・判断力・表現力等の育成」の重要性を指摘し、「基礎的・基本的な知識、概念や技能を習得して知識・技能を活用する学習活動を充実させることを重視する必要がある」と述べている。国立教育政策研究所による評価基準の作成、評価方法などの工夫改善のための参考資料（中学校社会科平成23年11月）において、「社会的な思考・判断・表現」の観点は、「社会的な事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している」と示されている。

小原(2009)は、社会科で育成することが求められる「思考力・判断力・表現力の概念規定を行うとすれば、社会的事象を『読み解く力』と考えることができよう」と述べており、そのために必要な問いを3つ挙げている。(図1) 1つ目は「社会を知るため」の問い(どのように、どのような)、2つ目は「社会がわかる」ための問い(なぜ、どうして)、3つ目は「社会に生きるため」の問い(どうしたらよいか、どの解決策が望ましいか)であり、社会的事象を「読み解く力」は、既に習得している基礎的な知識・概念・技能を活用して、この「3つの問いに答えていく力」としている。また、小原はこの3つの問いを基本とし「思考力・判断力・表現力」の概念規定を行い次の5つの力(表1)と示した。

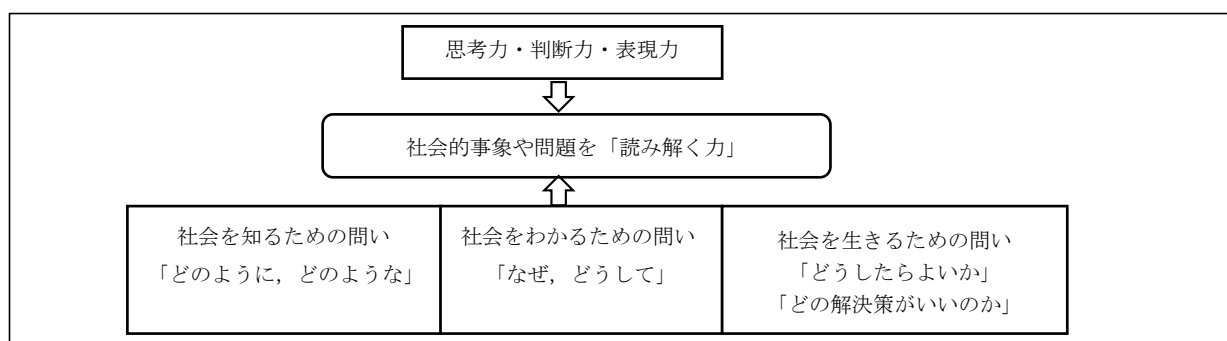


図1 「思考力・判断力・表現力」と3つの問い

問題発見力	「社会を知る」「社会がわかる」「社会に生きる」ための問題を発見する力
資料活用の技能	「社会を知る」ための問題「どのように、どのような」を解決していく力
思考力	「社会がわかる」ための問題「なぜ、どうして」を解決していく力
判断力	「社会に生きる」ための問題「どうしたらよいか、どの解決策が望ましいか」を解決していくことができる力
表現力	解決した情報を発信していく力

表1 「思考力・判断力・表現力」の概念規定と5つの力

5つの力とは①問題発見力②資料活用の技能③思考力④判断力⑤表現力であり、これらは相互につながっている関連する能力として捉え、育成していくことが重要であると考え。

これらのことから本研究における「社会的な思考力・判断力・表現力」とは、既に習得している基礎的な知識・概念・技能を活用し、「社会がわかる」ための問題を解決していく力、「社会に生きる」ための問題を解決していく力、解決した情報を発信していく力と捉え、本研究に取り入れている。

(2) 「思考力・判断力・表現力」と言語活動の重要性

中央教育審議会答申は、「子どもたちの思考力・判断力・表現力等を確実に高めるために、まず、各教科の指導の中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、観察、実験やレポートの作成、論述といったそれぞれの教科の知識・技能を活用する学習活動を充実させることを重視する必要がある」と述べている。このような学習活動の基盤をなすのは言語能力であり、その育成のためには

言語活動を充実させることが欠かせないものとなっている。指導計画を立てる際には適切な課題を設定し、思考力・判断力・表現力を育成するために、効果的な言語活動を取り入れていく必要があると考える。学習指導要領、中学校社会科の目標（様々な資料を適切に収集し、活用して事象を多面的・多角的に考察し公平に判断する、適切に表現する）の実現をめざし、社会的な見方や考え方を養うことをより一層重視する観点に立って、社会的事象の意義を解釈する学習や事象の特色や事象間の関連を説明するなどの言語活動に関わる学習を一層充実させることの重要性を述べている。岩田と米田(2014)は中学校社会科における言語活動の内容を①読み取り②解釈③説明④論述と示しており、小原(2009)が述べた「思考力・判断力・表現力」の5つの概念的規定にあてはめて考えると図2のようになる。

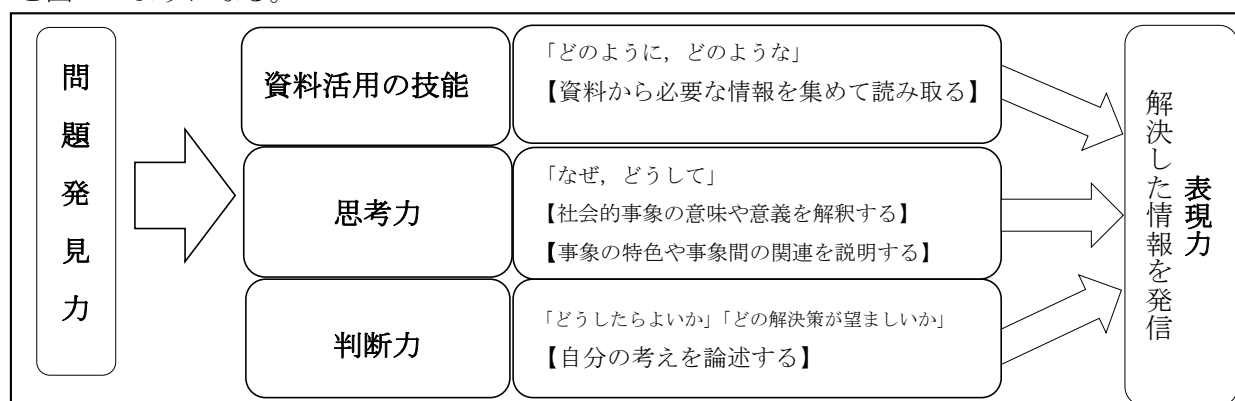


図2 「思考力・判断力・表現力」と言語活動

(3) 公民的分野における言語活動

公民的分野における言語活動とは、中央教育審議会答申の公民的分野の「改善の具体的事項」において「習得した概念を活用して諸事象の意義を解釈させたり事象間の関連を説明させること」や「自分の考えを論述させたり、議論などを通してお互いの考えを深めさせたりする」とある。

以上のことを受け、本研究における言語活動を資料からの情報の「読み取り」や学習によって得た知識・概念を活用して社会的事象を「解釈すること、説明すること」、自分の考えを「論述する活動」と捉え、毎時間の小課題との関連を図り、計画的に取り入れていく。また、学習後や単元ごとの振り返りをワークシートに自分の言葉でまとめる活動やまとめた内容をグループ内で発表し合い互いの考えを深め合う活動も取り入れていく。

(4) 課題解決学習

青柳(2015)は課題解決学習の手順について、「一般的に、課題の設定、次に資料の収集と活用、そして課題の追求、最後に課題解決といった手順が考えられる」と述べている。(図3) また、課題解決的な学習で授業を設計する上で重要なのは「学習課題の設定」であると述べ、学習目標や指導過程、授業展開の組み立て方について(図4)のように述べている。

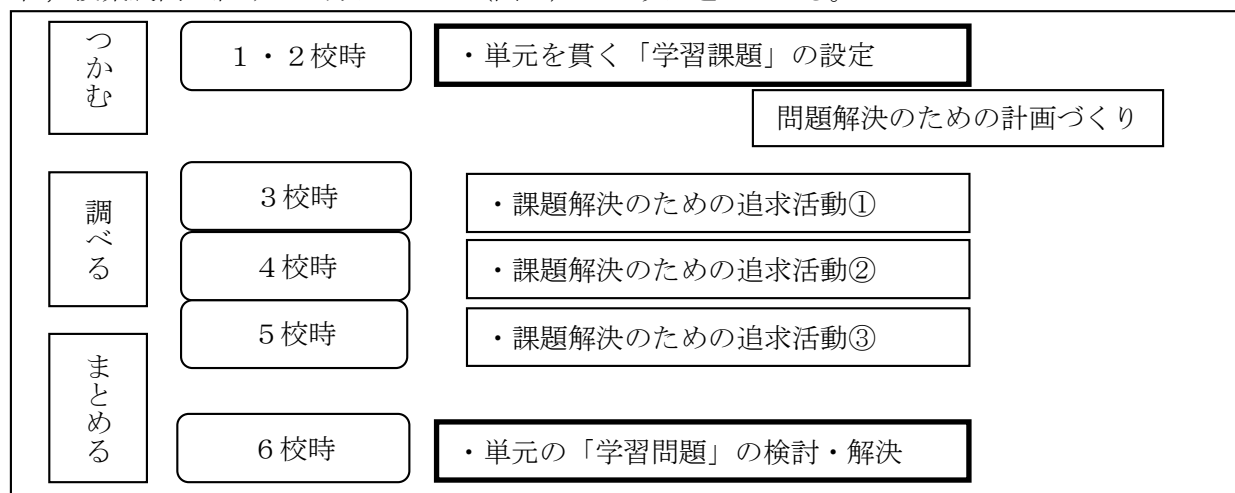


図3 課題解決学習の学習過程のイメージ

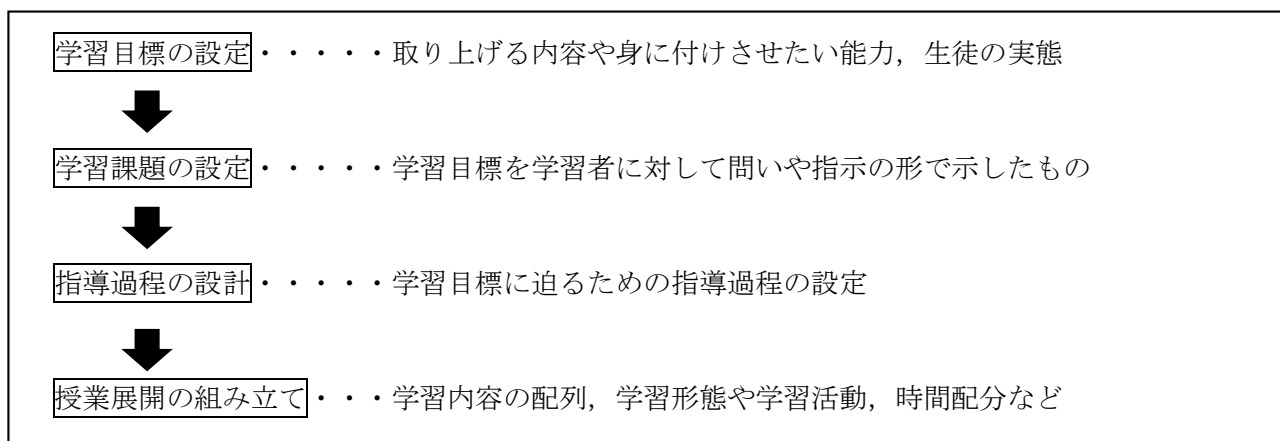


図4 課題解決学習における授業設計

(5) 単元を貫く発問の設定

青柳慎一(2009)によると、「単元を貫く課題」とは，単元を通して追求する課題であるとし，これにより，並列的であった各時間の学習内容や学習活動を有機的に結び付けてとらえたり，一連の追求の過程を押さえた学習展開へ再構成したりすることができるとしている。また，単元を貫く「発問」の考え方として同氏は以下の5つの要素を満たしているものと示している。

- ① 単元を通して探究できるものであること（「単元の課題」を導く）
- ② 学問的な学びがあり，主権者形成に寄与するものであること
- ③ 生徒に単元全体の学習に，探究したいとおもわせることができるものとする。
- ④ 各授業の主発問を導くものであること（「本時の課題」）
- ⑤ 単元全体を振り返る際に，機能するものであること（まとめ・評価）

以上のことを受けて，本研究では，第4章「私たちの暮らしと経済」4節「国民生活と福祉」において，「国民生活向上のために政府はどのような働きをしてるのだろうか」という単元を貫く問いを設定し，毎時間の授業においても，その問いの探究と関わりのある小課題に取り組んでいく。小課題を追求する過程で行われる活動（解釈すること，説明すること，論述すること）を通し，思考力・判断力・表現力の育成を図りたい。

2 調査研究

(1) 生徒の実態調査

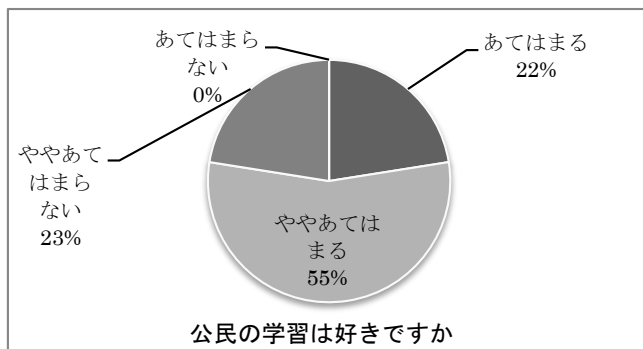


図 5

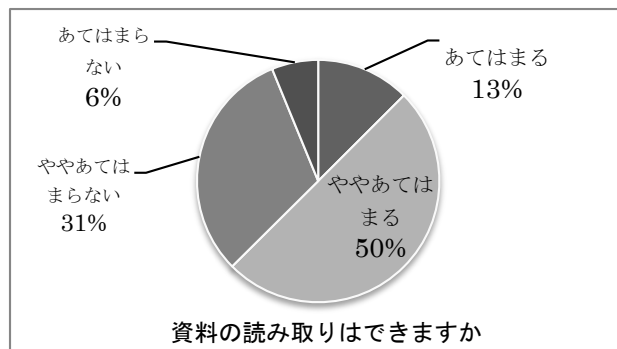


図 6

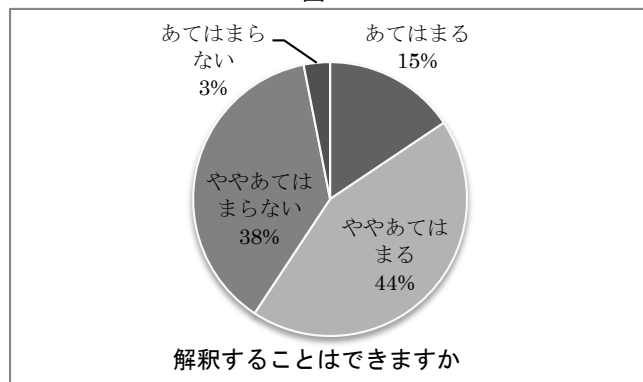


図 7

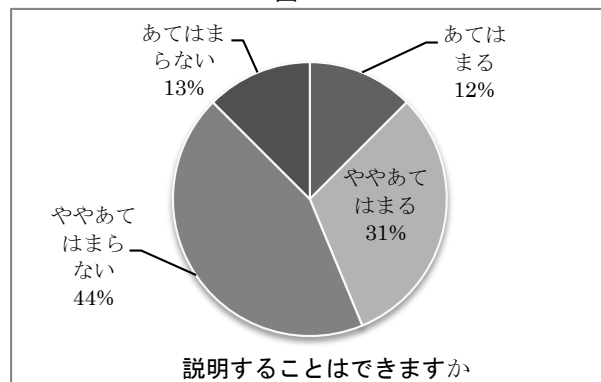


図 8

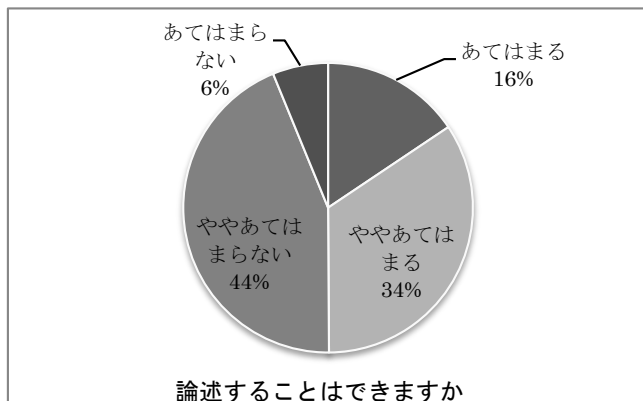


図 9

【考察】図5より約7割の生徒が公民学習を肯定的に捉えている。図6から約6割の生徒が読み取りができているのに対し、図7の解釈することは約4割の生徒が苦手意識をもっていること、図8，9から説明，論述に関しては約半数が苦手意識を持っていることがわかる。よって，資料を活用した言語活動を指導計画に適切に位置付け，指導の工夫を図る必要がある。

VII 指導の実際

1 実践事例

(1) 第1時「財政が果たす三つの役割」～経済活動において政府はどのような役割をしているのか～



写真 1

学習課題 に対する生徒のワークシート記述より

地域格差をなくすために資源分配を安定させ，社会資本を国民の快適な暮らしを作るために提供し，国民の生活安全を守るため，公共サービスを提供しているなどの役割がある。

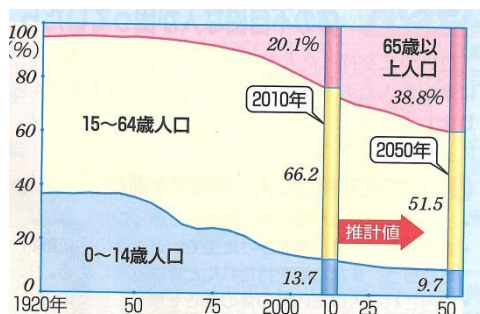
授業でわかったこと

「税金をなくせば良い」と思っていたけど，それは安全で快適な国民生活を守り，格差をなくす役割があったことが分かった。

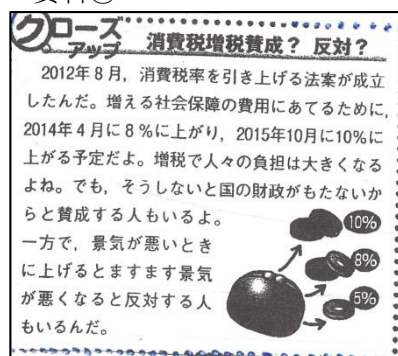
(2) 第6時 「テーマに対する自分の考えを根拠をもとに論述しよう」

テーマ 「社会保障充実のための消費税増税に賛成か？反対か？」

資料⑤日本の総人口の推移



資料⑨



資料⑦

間接税	
公平な点	全員が同じだけ負担する
不公平な点	所得が低いほど、税金の負担率が高い

【根拠をもとにした自分の考え】

資料⑤を見てみると、これからの日本の人口は社会保障を受ける高齢者がますます増え、それを負担する15~64歳の働く世代が減ることがわかります。次に資料⑨を見てみると、少子化による社会保障の不足を補うために消費税増税が行われることがわかります。しかし、社会保障を補っても、資料②のように低所得者の負担が大きくなると、公平ではありません。そのため、「軽減税率の対策が決められています。こうしたこれからの少子高齢対策」と「公平さについての対策」をしっかりと行った上での消費税増税なので、私は賛成です。年金など、いろいろ社会保障についての不満はありますが、「共に助け合い社会」を実現するために、平等さのある制度をすればよいと考えました。

(3) 第8時 「個人レポート作成」～政府は国民生活向上のためにどのような役割をしているか～

① 個人レポートの記述と単元を終えての生徒の感想

レポート用紙

① 政府は国民生活向上のために:
どのような役割をしているのだろうか。

国民から税金を集めて提供するものは、
社会資本(道路・ダム・港など)みんなが使う必要なもの
公共サービス(警察・消防・教育・国防など)何かあった時に助けてくれたりするもの
など税金を払う人だけが利用できるようにすると困るので政府が提供する
この役割を資源配分機能という

また、所得格差をなくすためにいくつかの税は所得の高い人ほど税金を高くする
制度などをつくり、極端な所得格差を調整している。
この役割は所得の再配分機能という

そして、景気循環が大きく変動すると国民の生活が不安定になるので、中央銀行
と協調して、財政政策という手断で景気の浮き沈みをへらすことを行っている。
この役割は経済の安定化機能という

政府は二のようにいくつかの役割をしている

財政のはたらき

既習事項
の
活
用

財
政
の
機
能

【単元の学習を振り返って感想を自由にかいてみよう！】

この単元で政府の役割や今の日本の課題について学んで、私が知らないけれど大人は多くの税金を払っていることや、少子高齢化や財政赤字など重大な課題があることがわかりました。今まで税が上からたらいやなだけだったし、年金もただお金をもらえるだけだと思っていただけで今回で増税や年金のしくみについてわかったので、これからは課題を解決するために自分ができることを考えたいです。

財政の課題を把握し、租税意識の変化もみられる。

2 公開検証授業

社会科（公民的分野）学習指導案

平成 27 年 12 月 22 日（火）2 校時
沖縄市立コザ中学校 3 年 4 組
男子 14 名 女子 20 名計 34 名
授 業 者 大 湾 明 子

(1) 単元名 国民生活と政府の役割

年間指導計画 12 月指導

(2) 単元の目標

国や地方公共団体による国民の生活と福祉の向上を図るための経済活動に対する関心を高め、その経済活動に関わる課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察できるようにする。

(3) 単元について

① 教材観

この単元は学習指導要領公民分野「(2) 私たちと経済」の「イ 国民の生活と政府の役割」を受けて構成する。本単元では、なぜ、すべての経済活動を市場の働きだけに任せておくことができないのか、国民の生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体はどのような役割を果

たしているのか、ということを理解させると共に、財政の役割や租税の意義などについて考えることを主なねらいとしている。学習指導要領中項目の内容の取扱いによると、「財政」については、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえて考えさせることとある。本時の学習では、少子高齢社会の到来によって、社会保障費の支出増とそれを支える財源不足をどのように解決したらよいのかを「消費税増税の問題」としてとりあげ、考えさせたい。その際、「社会保障充実のための消費税増税に賛成か、反対か」という発問を設定し、「二つの異なる立場」をつくりだし、「なぜ、それを選んだのか」の理由を論述させることで社会的事象を捉える力を身に付けさせたい。また、増税の必要性を判断するために、様々な資料を適切に選択・活用し、テーマに対する自分の意見や考えを根拠をもとに説明することで、互いの思考が刺激され「新たな考えや事象がみえてくる」ことも期待できるであろうと考える。さらに、社会保障と財源確保の問題の解決が税の負担者として自分の将来とどうかかわっていくのかを捉えさせ、社会的な問題に主体的に関わっていこうとする態度の育成にもつながると考え、本題材を設定した。

単元を通して、資料から必要な情報の取り出し、読み取ることや社会的事象について考えたことを根拠をもって説明したり、論述する活動を取り入れることで思考力・判断力・表現力の育成を図りたい。さらに、学習形態の工夫として「個」として取り組む場と「集団」で取り組む場を設定したい。

「個」として考察し、自分なりの考えを持ったうえで、互いの考えや意見を交流させ、「個」では気づけなかった新たな視点をみつけ、多面的・多角的な考え方を育てたい。

② 生徒観

本学級の生徒33名に学習状況アンケート（9月）と本単位と関わりの深い項目に関するレディネスアンケートを実施した。その結果を以下（表2）に示したい。

【4：あてはまる 3：ややあてはまる 2：ややあてはまらない 1：あてはまらない】

		4	3	2	1
Q 1	社会科の授業が好きですか。	42.4%	36.3%	18.1%	3.2%
Q 2	税を納める必要性を感じますか。	15.2%	54.5%	21.2%	9.1%
Q 3	税金の使い道を知っていますか。	知ってる	30.3%	知らない	69.7%
Q 4	消費税増税について賛成か。反対か。	賛成	24.2%	反対	75.8%
Q 5	社会保障について知っているか。	知ってる	6.0%	知らない	94.0%

表 2

本学級の生徒は、公民的分野の学習によく関心を示し授業に臨んでいる。税の必要性については約6割の生徒が肯定的に捉えているが、その使い道については、約7割が内容を把握していない回答であった。税の内容について知っていると答えた生徒の回答には「公務員や国会議員の給料」という意見が多く、「学校」「公園」「警察」「教科書」など自分たちの暮らしとの関わりについて回答した生徒は、約2割であった。

③ 指導観

本単元は抽象的な事柄が多いため、生徒にとって捉えにくい内容であると考えられる。そこで本単元の導入に「平成27年版 わたしたちの生活と税」や沖縄市の広報誌を活用し、国民の納める税がわたし達の暮らしを支えていることに気づかせたい。また、生徒からのアンケートで「消費税をはじめとする税金への疑問や不満」が多かったことを受けて、「国民生活向上のために政府はどのような働きをしているのだろうか」という単元を貫く課題を設定し、財政の役割や租税の意義、少子高齢社会の到来における社会保障の財源確保の問題などを追求し、本単元のねらいを理解させたい。その際、教科書の資料や新聞などを活用し、本単元と関連の深い社会的事象には多様な価値観があることにも気づかせたい。

単元の6時間目においては、前時で学習した財政の抱える課題（財政赤字）を解決するために「社会保障充実のための消費税増税について賛成か？反対か？」と是非を問い、根拠をもとにその考えをまとめさせたい。第7時（本時）においては、前時でまとめたテーマに対する自分の考えを説明する活動を取り入れたい。展開の最終段階においては、仲間との意見交流を通し、再度、「消費税増税について賛成か？反対か？」と是非を問う。賛成派、反対派双方の意見をきいて、自分の意見の再構築を図り自分なりの考えを持たせたい。「消費税増税について賛成か？反対か？」

についてはオープンエンドとし、多様な価値観を受け入れられるようにしたい。また、税制については複雑化している問題もあり、細かい内容においては深入りせず、既習事項に関する内容での論議を深めていきたい。さらに、本単元のまとめとして、第8時には単元を貫く課題「国民生活のために政府はどのような働きをしているのだろうか」という単元を貫く問いをレポート形式でまとめさせる活動を取り入れ、習得した知識や技能を活用する場として捉えたい。

沖縄市が取り組んでいる「自己肯定感」について下記の点で本研究と関わりがある。

ア グループ活動において自分の意見や考えを述べることで参加する価値や意義を感じる「存在感」

イ 他の意見や考えを知り、意見交流する関わりを持ち、互いに高め合う「有用感」

ウ 自分の考えを深めることで、達成感を味わい、主体的に頑張ろうという意欲をもてる「達成感」

(4) 単元の指導計画

時 数	学習活動・内容	評価の観点				本時の目標
		関	思	技	知	
1	【単元を貫く課題】 国民生活向上のために政府はどのような働きをしているのだろうか。 ・オリエンテーション 「政府の経済活動」 ○財政とは ○財政の三つの働き	●				・政府が果たしている経済的な役割を考える事ができる。 ・政府の三つの働きがわかる。 主発問：経済活動において政府はどのような役割か。
2	「税金の種類と特徴」 ○租税収入 ○租税と公正		●		●	・租税が国民生活に大きな影響を与える財政を支えていることに気づかせる。 主発問：直接税、間接税の特徴の違いはなんだろうか。
3	「財政のはたらき」 ○政府の収入と支出 ○公債の発行		●	●		・財政赤字などの政府の抱える課題とその取り組みについて、理解し今後の財政のあり方について考える。 主発問：財政の抱えている問題はどのようなものか。
4	「経済政策がめざすもの」 ○経済の成長と安定 ○財政政策と金融政策			●	●	・経済の成長と安定のしくみや政府や日銀が行う経済政策について理解し、どのように行われるべきかを考える。 主発問：なぜ、政府は経済活動をおこなうのだろうか。
5	「互いに助け合う社会」 ○社会保障制度について ○社会保障の現状		●			・憲法第25条「生存権」の具現化として社会保障制度があることやその概要について理解する。 主発問：社会保障とはどのような制度か。その課題は？
6	「社会保障と財政②」 ○社会保障充実のための消費税増税に賛成か？反対か？考えよう		●	●		・テーマに対する自分の考えを、根拠をもって説明できるようワークシートにまとめる。 目標：・テーマに対する自分の考えを根拠をもとにまとめてみよう！
7	【検証授業】 「社会保障と財政③」 ○社会保障充実のための消費税、増税に賛成か？反対か？意見交流を通し自分の考えを深めよう！		●	●		・テーマに対する自分の考えを、資料から読み取った根拠をもとに説明する。仲間との意見交流を通し、考えや意見を比較検討することによって自分の考えを深める。 目標：社会保障充実のための消費税増税に賛成か？反対か？自分なりの考えを持とう！
8	「単元を貫く課題」に対する考えを予想との比較や既習事項を活用しレポートにまとめる。		●			・単元をふり返り、政府の役割について税制や社会保障の面などから考察し、誰もが安心して暮らせる社会について多面的・多角的に考察することができる。

(5) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解
国や地方公共団体の経済活動に対する関心を高め、それを追求しようとしている。 話し合いに積極的に参加している。	国や地方公共団体が果たしている役割や財政の役割について、様々な事象から課題を見いだし対立と合意、効率と公正の視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	国や地方公共団体の経済活動に関する様々な資料を収集し有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめている。	社会資本の整備，社会保障の充実，租税の意義と役割及び，国民の納税の義務について理解し，その知識を身に付けている。

(6) 本時の授業について

① 題材名 「社会保障充実のための消費税増税について是非を問う」

② 本時の目標

ア テーマに対する考えを述べ合う場面において、資料を読み取り活用を図ることで、根拠をもとに自分の考えを説明することができる。【思考力・判断力・表現力】

イ 仲間と意見交流をする場において、互いの考えの共通点や違いを比較検討する中で、テーマに対する自分の考えを深めることができる。【思考力・判断力・表現力】

ウ 本時のめあて

「社会保障充実のための消費税増税について賛成か？反対か？自分なりの考えを持とう！」

エ 授業仮説

(ア) テーマに対する考えを述べ合う場面において、資料を読み取り、意図的に活用させる事で根拠をもとに自分の考えを説明することができるであろう。

(イ) 仲間との意見交流の場において、互いの考えの共通点や違いを比較検討する活動を取り入れることで、テーマに対する自分の考えを深めることができるであろう。

③ 本時の評価規準

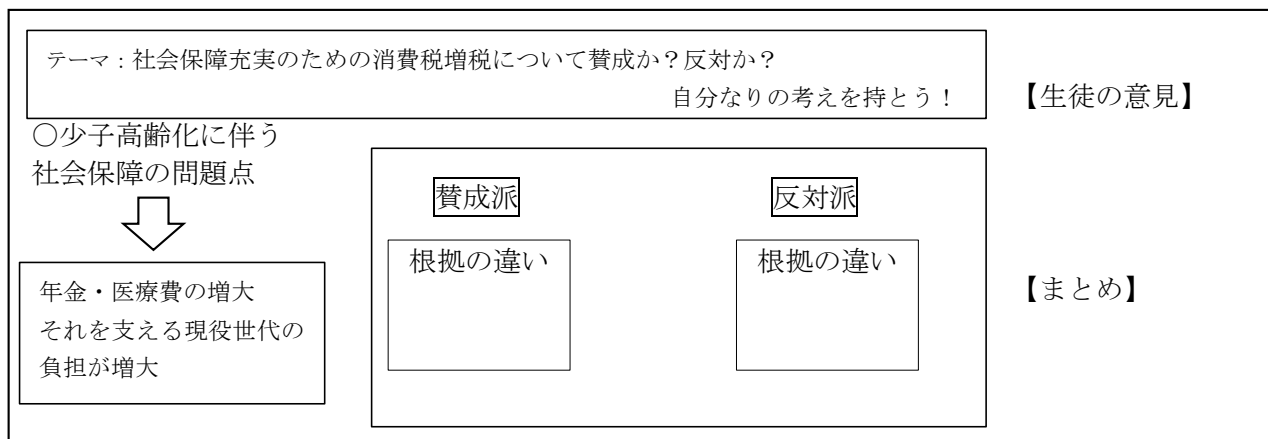
評価規準	具体評価規準		
	A：「十分満足できる」	B：「概ね満足できる」	C：「努力を要する生徒へのてだて」
ア：テーマに対する自分の考えを資料をもとに説明することができる。 【思考・判断・表現】	・複数の資料をもとに、テーマに対する自分の考えを根拠をもとに論理的に説明することができる。	・資料をもとに、テーマに対する自分の考えを、根拠をもとに説明することができる。	・テーマに対する結論だけをかいている。 【手立て】 ・自分の考えや理由を書かせる。
イ：仲間との意見交流を通し、互いの考えの共通点や違いを比較検討する中で、テーマに対する自分の考えを深めることができる。 【思考・判断・表現】	・テーマに対する結論を述べ、その理由を説明しているか。 △テーマに対する考えに広がりや深まりがみられるか。 △新たな視点、違う立場の意見を聞いての記述などがみられるか。	・テーマに対する結論を述べ、その理由を説明している。 △テーマに対する考えに広がりや深まりがみられるか。	・テーマに対する自分の結論しかかけていない。 【手立て】 結論の理由を仲間の意見を参考に考えさせ、文章で表現させる。

(表中△は評価の視点)

④ 本時の展開

過程	学習内容・発問など	予想される生徒の反応	指導上の留意点・評価
導入	○前時までの確認 生徒のまとめでよい内容のものを2名発表 少子高齢化と社会保障の抱える問題点について		・タブレットを活用して前時までの学習を振り返り問題点の確認をする。
	○テーマの確認 社会保障の充実のための消費税増税に賛成か？反対か？ 自分なりの考えを持とう！		
	○前時で学習した根拠をもとにした自分の意見を確認する。		・内容がしっかりかけているか。
展開	○グループ（4人程度）で自分の考えを根拠をふまえて述べ合う。	【賛成派の予想意見】 ・現役世代が減るので、社会保障のことを考えると増税は仕方ない。 ・ヨーロッパと比べるとまだ、税率は低いから。 【反対派の予想意見】 ・所得が低い人に不利。 ・食料品の値段はあがらなくても、生活にお金がかかる。 ・こづかいが減る	・司会をたてて話し合いを進める。 評価規準① （思考・判断・表現）
	○賛成・反対の双方の意見を根拠をもとに発表させ、学級全体で確認する。（数名発表）		・タブレットを活用し発表 ・教師が黒板にカードを使い理由を整理する。
		双方の主張する意見から問題点がないかを考える。	
	○公平・公正な税負担の問題について考える。		・タブレットを活用し習得した学習内容を確認する。 ・財政赤字の問題をどう考えるか。 ・逆進性の問題をどう考えるか。
まとめ		社会保障充実のための消費税増税に賛成か？反対か？ 最終的な自分の考えを持とう！	
	○意見が変わった生徒はネームプレートの移動を行う。 ○学級全体での意見交流のあと、最終的な自分の意見や考えをまとめる。（数名に発表）		評価規準② （思考・判断・表現） 【Cの生徒へのてだて】 立場を選ばせ、理由を選ばせる。 ・タブレットを活用し発表 ・オープンエンドとする
まとめ	○教師によるまとめ		
	○自己評価カードの記入		自己評価カードの提出

⑤ 板書事項



⑥ 公開検証授業の様子

【ネームプレートによる意思表示（初発）】



写真 2

【賛成派による意見の発表】



写真 4

【グループによる意見交換】



写真 3

資料より先進国の中で日本は
消費税率が低い。・・・
よって増税に賛成！

年収の低い人は消費税が上がると
高い人より2倍の負担がかかる！
よって、反対！

【反対派による意見の発表】



写真 5

【全体・グループでの意見交換】



写真 6



写真 7

【自分の考えの再構築（個で取り組む）】



写真 8

【最終意見の発表】



写真 9

⑦ 検証授業を終えての振り返りワークシート

今日の授業でわかったことや感想を書こう

一人一人考え方が違っていて、いろんな方向から見ることができ、悪い面も良い面も自分には見えなかった所が見えるようになりました。話し合うことで、自分と他人の考えを照らし合わせたりできました。いい話あいだったと思います。

今日の授業で消費税増税に短所と長所があることがわかった。増税をする理由が社会保障費のためだと考えるならば、賛成です。でも、政府に無駄遣いはしてほしくないと思った。

今日の意見交流で、たくさんの意見を聞き、自分と違う意見の人もいていっぱい、学びました。また、今度、意見交流したいです。

VIII 仮説の検証

本研究では、公民的分野の学習において資料を活用した言語活動の充実を図ることで、思考力・判断力・表現力を育むことができたかを生徒の意識調査の変容（対象学級32名、検証前〈10月〉、検証後〈12月〉）にアンケートを実施）、自己評価カード、ワークシーやレポート記述などから検証していく。

1 具体仮説の検証

単元を貫く課題解決の場において、「読み取る」「解釈する」「説明する」「論述する」際の指導の工夫を図り、言語活動を充実させることで思考力・判断力・表現力が育つであろう。

(1) 社会科学学習における意識の変容から

① 「読み取り」について（図10）

「資料を読み取ることができますか」の問いに検証前は「できる」「ややできる」と回答した生徒が62.5%だったが、検証後は74.9%となり、肯定的な捉えが増えた。中でも「できる」と捉えた割合が検証前より約3倍に増えている。

その要因として、単元の導入時にタブレットを活用し「読み取りポイント」の説明をしたこと、読み取りに自信がない生徒もいるためペア活動を取り入れたこと、単元が進むにつれ読み取りの難易度をあげ、段階的な指導を工夫したことである。そのことは「読み取りポイントがわかりやすかった」「ペアでやったので確認がしやすかった」という生徒の感想からもわかる。

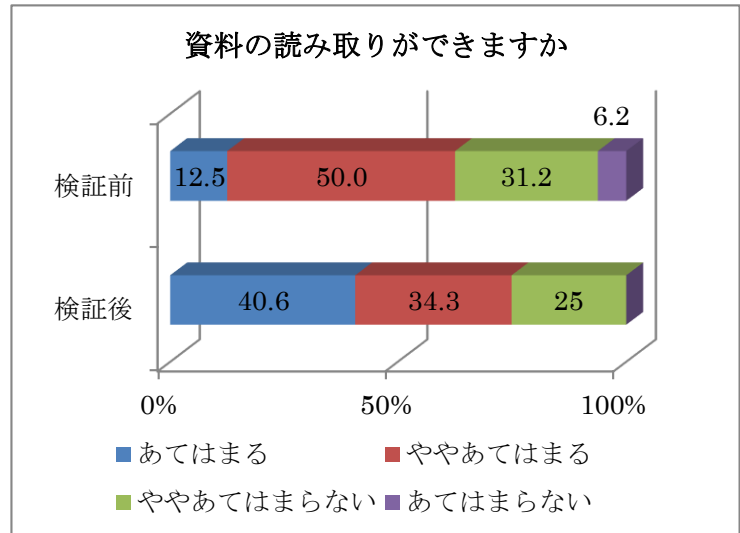


図 10

② 「解釈すること」について（図11）

「社会的事象の意味や意義を解釈することができますか」の問いに「できる」「ややできる」と回答した生徒が検証前は59.3%であったが、検証後は68.7%となり9.4ポイント増加した。「解釈すること」は生徒が読み取った情報を考察して「説明」につなげるための学習である。単元の1・2時間目では読み取りはできているが、解釈した内容をどのように表現していいのかわからない生徒が多くいた。そこで、3時間目からは「資料から事実としてわかること」と「資料から考えたこと」を分けて学習を進めた。このような工夫を取り入れたことが「解釈することができるようになった」という意識の伸びにつながったと考える。

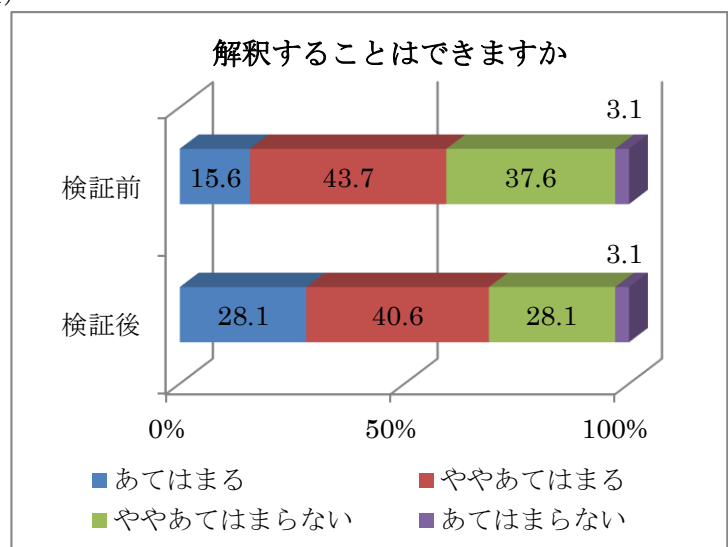


図 11

③ 「説明すること」について(図 12)

「事象の特色や事象間の関連を説明することができますか」の問いに対し、「できる」「ややできる」と回答した生徒は検証前は、43.7%であったが、検証後は 56.2%となり肯定的な捉えが増えた。中でも検証後は「できる」の割合が検証前より 2 倍に増えている。その要因は、「解釈すること」で述べた段階的な指導に加え、教科書や資料からその背景や原因を調べる活動を取り入れたこと(写真 10)、うまく表現できている生徒の記述をタブレットを活用し学級全体で確認したこと(写真 11)と考える。

一方、「説明すること」に対し、肯定的な捉えは増えているものの、検証後も約 4 割の生徒が苦手意識を持っていることがわかる。今回は一単元での検証であったため、今後も継続した長期的な取り組みが必要であると考え。

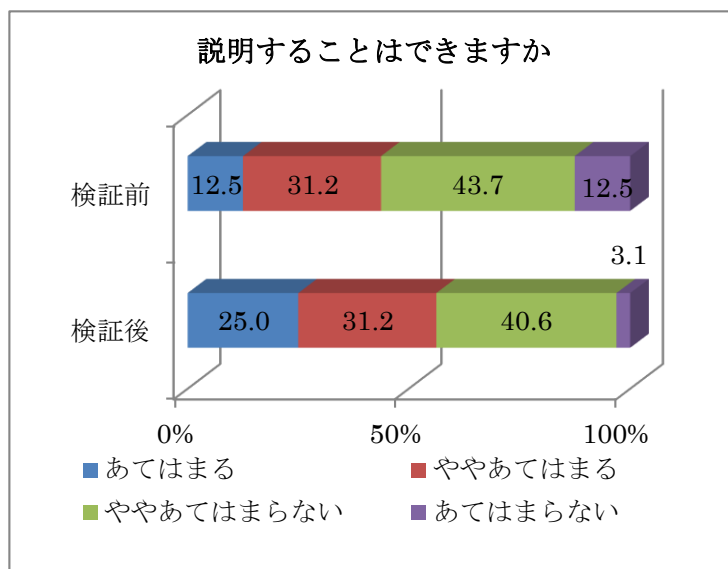


図 12



写真 10



写真 11

④ 「論述すること」について(図 13)

「自分の考えを論述することはできますか」の問いに、検証前は「できる」「ややできる」と答えた生徒が 49.9%であるのに対し、検証後は 71.8%となり約 20 ポイント近く伸びた。今回の検証では 7 時間目にテーマに対する自分の考えを論述した。検証前の意識調査では約 5 割の生徒が苦手意識をもっている実態から、「二つの異なる立場」を設定し、考えを生み出しやすくした。また、テーマの選定も既習事項を活かせる内容、自分ごととして捉えやすい内容にするなど工夫した。

検証後の感想では「違う立場の意見を考えることができた」「自分の生活と関わりのあることで became など論述することを通して社会事象について考えが深まった様子が見られた。

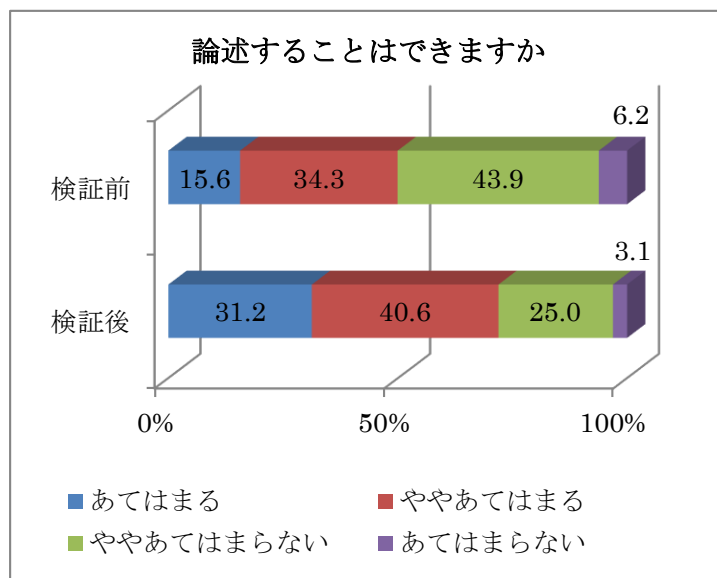


図 13

⑤ 「興味・関心」について（図 14）

「公民の学習は好きですか」の問いに「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒が、検証前は 77%であったのに対し、検証後は 90.8%となり、単元を通した学習への肯定的な捉えがみえる。生徒の振り返りには「現代社会のしくみがわかり楽しかった」「普段の生活と関わりのあることで、ニュースを理解できるようになった。もっと勉強したい」など今後の学習への意欲とともれる感想が多くあった。課題解決のため思考・判断することが社会的事象を「読み解く力」となり、公民学習を学ぶ「楽しさ」につながったのではないかと考える。

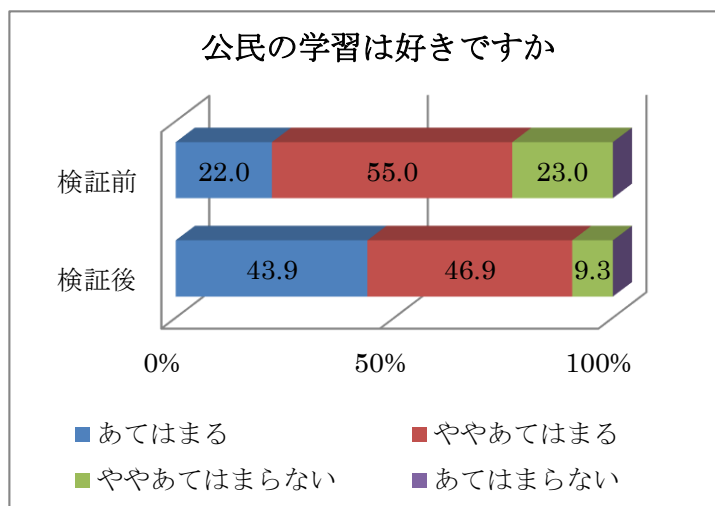


図 14

(2) 単元のワークシートやまとめのレポート記述から

① 単元のワークシート記述から

第3時間目は導入時に国債残高と国債依存度のグラフを読み取り学習課題を追求した。2つの資料からわかることと問題点を考え、その要因を教科書で調べた。下はその時間の生徒のワークシート記述である。学習課題を解決するために、グラフから読み取ったことを解釈し事象間の関連を自分の言葉で説明していることがわかる。

学習課題 「財政の抱えている問題はどのようなものか。説明してみよう。」

グラフを見ると歳入の47.9%が公債金である。国債残高を表すグラフからは2011年の国債残高が約700兆円であることがわかる。1990年の歳入のグラフから社会保障費16.6%から31.4%(2013)と2倍に増えている。なので日本は深刻な財政赤字を抱えて高齢化が影響していると考えられる。

第5時間目は社会保障制度についての学習課題の追求を行った。ワークシート記述の評価を「思考・判断・表現」の評価基準表をもとに行い、「満足できる」を評価A、「おおむね満足できる」を評価B、「努力を要する」を評価Cとした。第5時間目のワークシート記述の評価（図 15）について、評価Aと評価Bを合わると、71.8%（23名）となり全体の約7割の生徒が学習課題を捉えていることがわかる。下はこの時間の評価Aの生徒のワークシート記述である。社会保障制度の特徴をまとめ、少子高齢化の進展に伴う現役世代の負担について着目している。

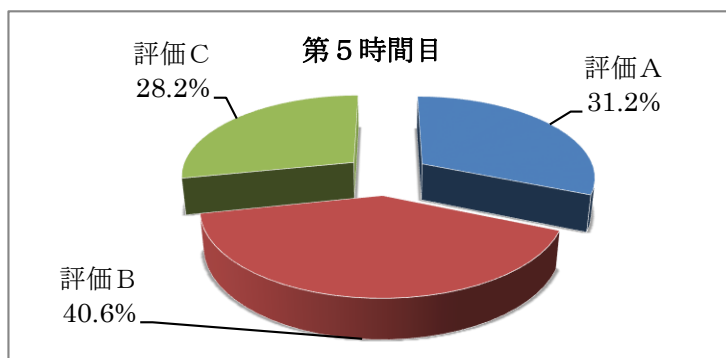


図 15

学習課題 「社会保障制度の特徴はなんですか。その課題はなんですか」

社会保障制度は、社会全体でお互い助け合うことが必要となります。社会保障制度の中心は社会保険で、高齢者を支える年金や、介護が必要な人のための介護保険などがあり、それは国民（現役の人）が税金や年金で負担している。しかし、課題は、近年現役の人が少なくなっており、さらに、年金と医療への給付が不足している。現役の人たちの給付だけでまかなえていない。

一方、評価Cの生徒の記述に着目してみると、社会保障についての記述はあるものの、特徴という点で捉えが弱い、もしくは、課題についての記述がない生徒があった。授業の感想には「2つの資料を関連づけて考えることが難しかった」「時間が足りなかった」などがあった。このことから思考させる場面において、時間の確保が不十分であったことや、複数の資料を読み取り活用する際の手立てが不十分であったことなど課題が残った。

7時間目は「社会保障充実のための消費税増税に賛成か？反対か？」というテーマのもと自分の意見を論述する学習を行った。図16からわかるように評価Aが19%（6名）、評価Bが72%（23名）と合わせ91%の生徒が目標に達していることがわかる。下はこの時間の評価Aの生徒の記述である。違う立場の意見を考慮しつつ、これまでの学習でわかったことを根拠に自分の意見を論述している。

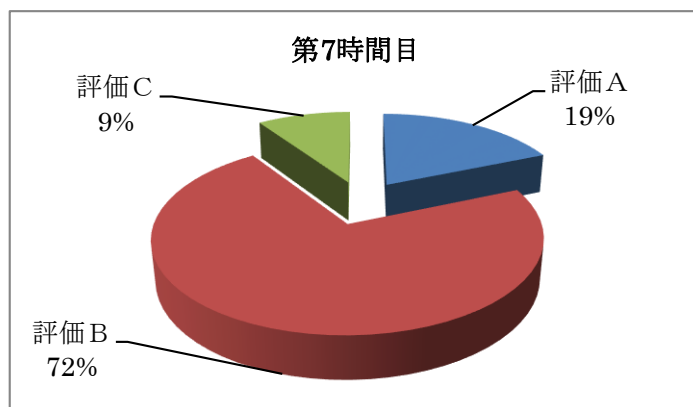


図 16

賛成
・
反対

低所得者の負担が育くなるという点が反対派にあげられたが、社会保障の中に、「生活保護や保険」など、国民の生活を守る制度がある。なので、この持ち分税率で社会保障が不足するということは、1人1人の最低限度の生活に影響が出ると予想した。増税を通じて困っている人を支援するため、賛成します。

違う
立場の
意見

既習事項
の
活用

今回の検証授業においては、テーマに対する自分の考えを資料から読み取ったことと関連付けて述べている生徒が多かった。学習課題を追求するために資料を読み取り、解釈したことを根拠に自分の考えとして論述するには、長期的な取り組みが必要であり今後も継続した指導が必要である。

② まとめの個人レポートの記述から

第8時間目は、単元のまとめとして単元を貫く課題に対する個人レポートを作成し、それを評価した。（図17）

評価Aの生徒は28%（9名）であり、

既習事項を活用し、財政の役割や機能について記述していた。今回、文章としては表現できているものの、単元のねらいと関連の弱い記述が含まれているものは評価B（20名）とした。このことから、キーワード語句を用いて「説明」させるなど工夫が必要であったと考える。また、評価Cの生徒は9%（3名）であり、その内容は語句のみの記入であった。単元を振り返ってみると、C評価の生徒は「読み取り」「解釈」の段階でつまづいている生徒が多い。特に「解釈」は「説明」につなげるための重要な学習過程であり、今後は、これまでの段階的な指導に加え、

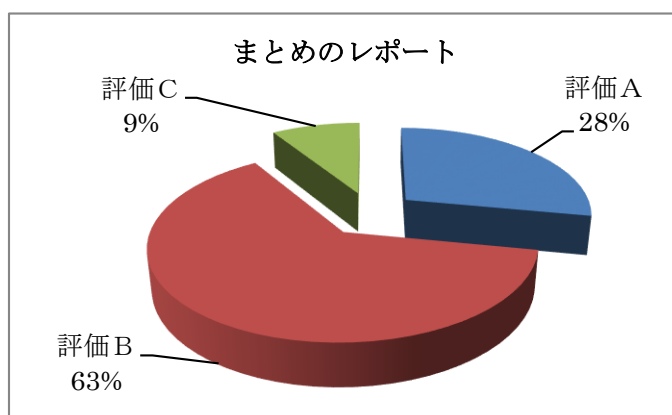


図 17

思考ツールをワークシートに取り入れるなど工夫が必要である。さらに、課題解決学習において、評価基準を明確にすることや評価方法の具体化を図ることも重要であり、指導と評価の一体化を図ることは今後の新たな課題である。

(3) 仮説検証の考察

社会科学学習における意識の変容、ワークシート記述や個人レポートの評価の結果から「読み取る」「解釈する」「説明する」「論述する」際の指導の工夫を図り、言語活動を充実させることは思考力・判断力・表現力の育成におおむね有効であったと判断できる。

IX 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 単元を貫く課題解決学習を取り入れることで、単元で身につけさせたい思考力・判断力・表現力を明確化することができた。
- (2) 学習課題を解決していく過程に、資料を活用した言語活動を意図的にとり入れたことで思考力・判断力・表現力などが高まった。
- (3) 「読み取り」「解釈」「説明」「論述」などの言語活動を行う際、学習形態の工夫、ワークシートの工夫、効果的なタブレットの活用を図ることで学習のねらいにせまることができた。

2 課題

- (1) 思考させる時間の確保が不十分であった。今後は思考に深まりを持たせる場面設定の工夫を図りたい。
- (2) 「解釈」「説明」「論述」することが苦手な生徒への手立てが不十分であった。今後は、思考ツールを活用したワークシートの工夫を図り、考えたことを文章で表現する力を育てたい。
- (3) 生徒の理解状況を確認し、授業展開を再構成する工夫が足りなかった。今後は、評価方法についても検討し指導と評価の一体化を図りたい。

〈主な参考文献・引用文献〉

- ・青柳慎一 2015 『中学校社会科 授業を変える 課題提示と発問の工夫 45』 明治図書
- ・内藤圭太 2015 『単元を貫く発問でつくる中学校社会科授業モデル 30』 明治図書
- ・堀内一男・伊藤純郎・篠原総一 2014 『中学校 新学習指導要領の展開 社会科編』 明治図書
- ・岩田一彦・米田豊 2009 『言語力をつける社会科授業モデル』 明治図書
- ・国立教育政策研究所 平成 23 年 『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料』
- ・小原友行 2009 『思考力・判断力・表現力をつける社会科授業デザイン』 明治図書
- ・堀内一男・大杉昭英・伊藤純郎 2009 『平成 20 年度改訂 中学校教育課程講座 社会』 ぎょうせい